

研究協力のお願ひ

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究課題名：Magnetic Resonance Angiography (MRA) 信号値を用いた脳血流予測に関する検討
<p>1. 研究の対象</p> <p>2019年8月～2021年3月に昭和大学横浜市北部病院で頸動脈狭窄症の疑いのためMRA(※1)、核医学検査、脳ANGIO(脳血管撮影)検査を受けられた方</p>
<p>2. 研究目的・方法</p> <p>脳梗塞などの原因となる頸動脈狭窄症の治療におけるカテーテルを用いた頸動脈ステント留置術(CAS)(※2)術後の重篤な合併症の一つに過還流症候群があります。過還流症候群とは術前と術後を比較し、術後の血流の流れが1.5倍以上に上昇すると過還流症候群と定義されています。そこで術後に血流の流れの上昇によっておこる過還流症候群を抑えるために、術前後の脳血流量を把握することが重要です。脳血流量を把握する検査は核医学検査である脳血流シンチグラフィ(※3)が一般的ですが、手技が煩雑でコストも高く、すべての症例において行われるものではありません。CASを施行する予定の患者さんは、術前にMRIを用いた血管像(MRA)撮影をしていることが多くあります。MRAを用いることにより脳血流量の程度を血管の途絶や狭窄の画像として捉えてるとともに、血管の濃淡により観察することができます。そこで過還流症候群などの術後の合併症の予測を行うため、カテーテルを用いた頸動脈ステント留置術(CAS)症例における術前後の脳血管内の一部である中大脳動脈部分のMRAの血管の濃淡の数値から、脳血流量の変化の把握が出来るか検討を行います。</p> <p>本研究では、頸動脈狭窄症の疑いのため、MRA、核医学検査、脳ANGIO(脳血管撮影)検査を施行した患者データを使用します。患者データは、病院内の診療録管理室にて「3. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。</p> <p>研究期間</p> <p>保健医療学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、昭和大学保健医療学研究科長および昭和大学横浜市北部病院病院長の研究実施許可を得てから2023年3月31日まで</p>

<p>用語説明</p> <p>※1 MRA: MRI を利用して行う血管把握を目的とした撮影する方法</p> <p>※2 頸動脈ステント留置術 (CAS) : カテーテルによる治療。血管の内部にカテーテルを挿入して、首の血管の細くなった部分をバルーン (風船) やステント (金属の筒) を用いて拡張する治療方法</p> <p>※3 脳血流シンチグラフィ: 脳組織に集まる放射線性の医薬品を投与して、その分布を画像化し、脳の血流を評価する検査。</p>
<p>3. 研究に用いる試料・情報の種類</p> <p>情報: MRA 像、核医学検査、脳 ANGIO (脳血管撮影) の各画像データ、患者情報 (年齢、性別、身長、体重、治療方法)</p>
<p>4. お問い合わせ先</p> <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>研究対象者より本研究終了後、試料・情報等を将来の研究で使用する事の同意を取得した場合、本データは将来の研究で使用する可能性があります。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:</p> <p>所属: 保健医療学研究科 (昭和大学統括放射線技術部) 研究責任者氏名: 加藤 京一 住所: 142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号: 03-3784-8982</p>